OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	大阪市における患者支援と新たな退院基準案に備えること
Author(s)	江川, 裕子
Citation	2025年度ストップ結核パートナーシップ関西　第13回ワークショップ「これからの結核対策を考える ： 新しい退院基準にどう備えるか」. 2026, p. 38-41
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/104109
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

新たな退院基準へ現場からの声 ーー保健師の業務はどう変わるーー

大阪市における患者支援と新たな退院基準案に備えること

大阪市保健所　感染症対策課
保健師　江川　裕子



1

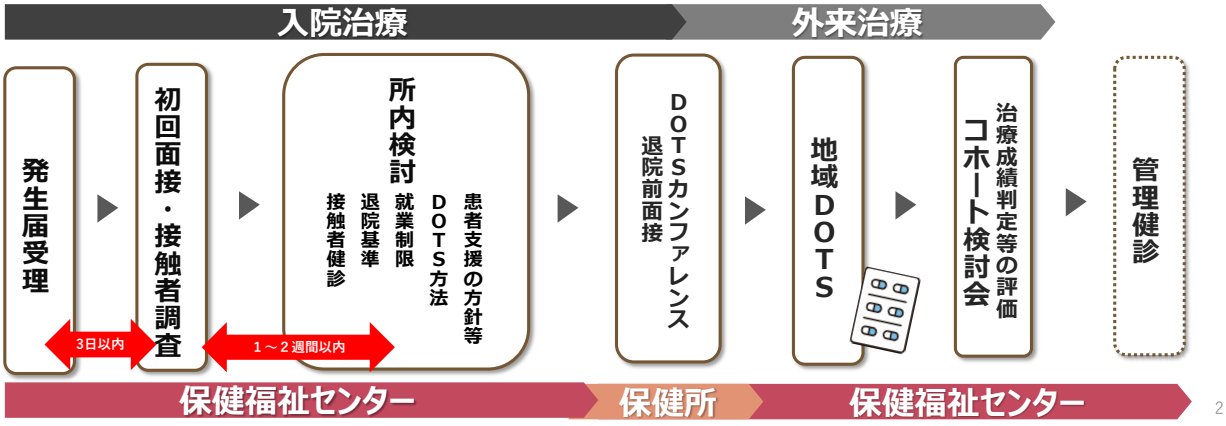
大阪市の結核発生動向と患者支援体制

大阪市　結核罹患率
17.4（2024年）全国の約2倍

結核患者のうち外国出生結核患者の割合　19.3％
（20歳代結核患者に占める外国出生の割合　84.8％）

結核業務に携わる保健師約280人

24区保健福祉センター　←技術支援←　大阪市保健所



2

大阪市の地域DOTS実施方法

■対面を原則
■全結核患者へCタイプ以上
■肺結核患者へ原則Bタイプ以上

事業委託DOTS

【訪問型】

【薬局型】

【医療機関外来型】

保健師DOTS

【訪問型】

【来所型】

【連絡確認型】

【飲みきるミカタ型】

家族DOTS

【配偶者】

【子・子の配偶者】

【親】

【その他】
きょうだい・内縁関係など

支援者DOTS

【訪問・通所型】
訪問介護、訪問看護、デイサービスなど

【入所施設型】
特別養護老人ホーム、老人保健施設、有料老人ホームなど

【その他】
職場、学校、地域支援団体など

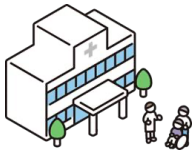
3

新たな退院基準へ必要な備え



入院期間が短縮されることで、患者さんは住み慣れた自宅で療養ができたり、ADLの低下を防ぐことが期待できそう！
では、その際に保健師が準備しておくことって何だろう？

1 医療機関との連携



2 DOTSを含む患者支援



4

新たな退院基準へ必要な備え（医療機関との連携）

- ✓ 患者がBCG未接種者と同居している等、「退院させなければならない基準」まで入院が必要な場合、保健福祉センターから入院医療機関への連絡が必要となるため、保健師はできるだけ早く所内検討を行う
- ✓ DOTSカンファレンスより前に患者が退院となった場合、入院中の患者の状況把握が遅れる可能性がある。保健師は、入院医療機関からの退院連絡時、患者の状況を速やかに把握し、患者と退院前面接を行う
- ✓ 日本語理解が不十分な外国出生患者へ保健指導が必要な場合に備え、オンライン医療通訳等の体制の整備について検討する
- ✓ 保健師は、DOTS実施中に患者の副作用の有無や体調を把握し、副作用出現時は速やかに通院医療機関と連携する



5

新たな退院基準へ必要な備え（DOTSを含む患者支援）

- ✓ 患者の外出制限の範囲について十分に検討し、退院後の生活についてより丁寧な保健指導を行う
- ✓ 患者が外出制限中は訪問DOTSを受けられるよう、DOTSの支援体制の整備を行う
- ✓ 保健師はDOTSを実施中も、アドヒアランスの評価を随時行っていく
- ✓ 患者の就業制限解除が円滑に行えるよう、保健師は検査実施について通院医療機関と連携を行う
- ✓ 医療介護サービスが必要な患者が円滑にサービスを受けることができるよう、保健師はサービス事業者等と調整する





保健師はDOTSを基盤とした服薬支援に加え、多職種と連携しながら、社会的背景にも配慮し、引き続き治療完遂へ導く支援が必要！

6

ご清聴ありがとうございました



7